

平成28年度みやぎきの文化を考える懇談会（第3回）議事録

1 日 時 平成29年1月26日（木）13：30～15：20

2 場 所 宮崎県庁 本館2階講堂

<主な意見>

○県の事業として多様な分野が共同して実施したい文化団体をマッチングするような仕組みがあれば、国民文化祭でも面白い取組ができるのではないかと。

○県人会の方は宮崎を東京や他県を比較しながら、地元に対していろいろな関心を持っているので、この懇談会のように県人会から意見を聴く機会を設けてはどうか。

○今回の懇談会の委員は10名であったが、次回はもっと多くの参加者を募ってはどうか。参加者も何かしなければいけないという気も起こるのではないかと。

○移住定住を考える際に、宮崎に対する価値を高め、深めていく素地としては文化の余地が非常に大きい。

○机にかじりついて仕事をしている職員が増えてきているのではないかと感じられるという意見もあったが、行政職員に提案し動かすのも行政と民間との協働の一種であり、職員の意識改革だけではなく協働の仕組みをつくることも大切である。

○文化活動をする人達や芸術家の間に入って資金や運営面等についてアドバイスをしてくれるような専門家がいると助かる。県がイベントをする際にいろいろな提案や助言をしてくれるような役割を担ってもらえるといい。

○行政が何かしてくれるのを待つだけではなく相談する側から動くことも必要で、行政側もこの人なら相談できるという担当者の「顔」が見える関係づくりも必要である。

○昨年舞台公演においてトラブルがあって、専門的な知識があれば回避できたのではと思う出来事があった。教える側、支える側の人材育成の重要性を痛感した。

○郷土芸能大会の運営ができてきているのは、市がそれぞれの団体を結び合わせ、予算の足りないところは文化庁の補助金を確保するなど、行政と民間がその持ち場持ち場で協力しあえているからである。

○企業や個人同士のつながりが、官だけではなく、多様な主体への活動支援・相互の連携・協働体制の整備といったところにつながるのではないかと。企業に地域への貢献、役割についての問いかけをしていく必要がある。

○県内にたくさんのイベントがあって、バラバラで行われていていつ誰がどこで主催しているのかわからないが、それが集まれば大きなイベントになるのではないかと感じる。国民文化祭を機に取り組めば新しい本県の魅力を発揮できるのではないか。

○OJTとして文化イベントを任せていくことによって、宮崎県内で専門人材が育てられるような仕組みを29年度以降国民文化祭に向けて取り組んでいく。国民文化祭終了後も継続してやっていくために仕組みづくりとか人材づくりが重要だと考える。

○グリーンツーリズムもなかなかノウハウが集まらない分野で、人材を育成する機能がなかったのが、九州エリアの中のキャリアのある、実績をもったトップランナーに声をかけて集まってもらい中間支援組織をつくったところ。

○産業振興機構の取組は、産業分野に限らず人のロールモデルとして、国民文化祭の機会に乗じて文化振興機構のような組織を育てていく、その中で専門家やスーパーバイザーが活動していくという流れを作る方法も考えられる。

○郷土芸能を知ってもらう機会として、文化振興だけではなく、まちづくりや観光分野でもチャンスがあったらそういう場にどんどん出ていきたい。

○県内市町村との交流や結びつきをつくるためにも、県の郷土芸能大会が開催されるとよい。

○県内には数多くの地域文化に携わる人々や資源があるので、その本質を捉えながらじっくりと取り上げてもらいたい。

○産業は30年サイクルで変わっていくが、30年後は文化も新しい産業のキーワードになっていくのではないか。人の豊かさだったり人間の価値というものを大事にする、そういう県になっていくことが重要で、宮崎だからこそ文化ができるんだ、表現活動ができるんだという力になっていけばよい。